

## 加賀家文書歴史講座

### ～北海道の名付け親、松浦武四郎の

### 資料を見よう～のお知らせ！



2018年（平成30年）は、「北海道」と命名されてから150年の節目を迎えます。

北海道はかつて「蝦夷地」と呼ばれていましたが、1869年（明治2年）に幕末の探検家松浦武四郎が意見書を明治政府に提案し「北海道」と命名されました。

「加賀家文書」には、松浦武四郎に関する資料が多く残り大変貴重なものとなっています。どのような資料が残っているかわかりやすく解説いたします。

- 日 時 平成30年1月27日（土）午前10時～12時
- 場 所 附属施設加賀家文書館
- 定 員 20名 電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を1月26日（金）までにご連絡ください。

然の営みが見えてきます。私の講演では、皆さんに分かりやすく、別海町の海岸地形の

## 平成29年度企画展

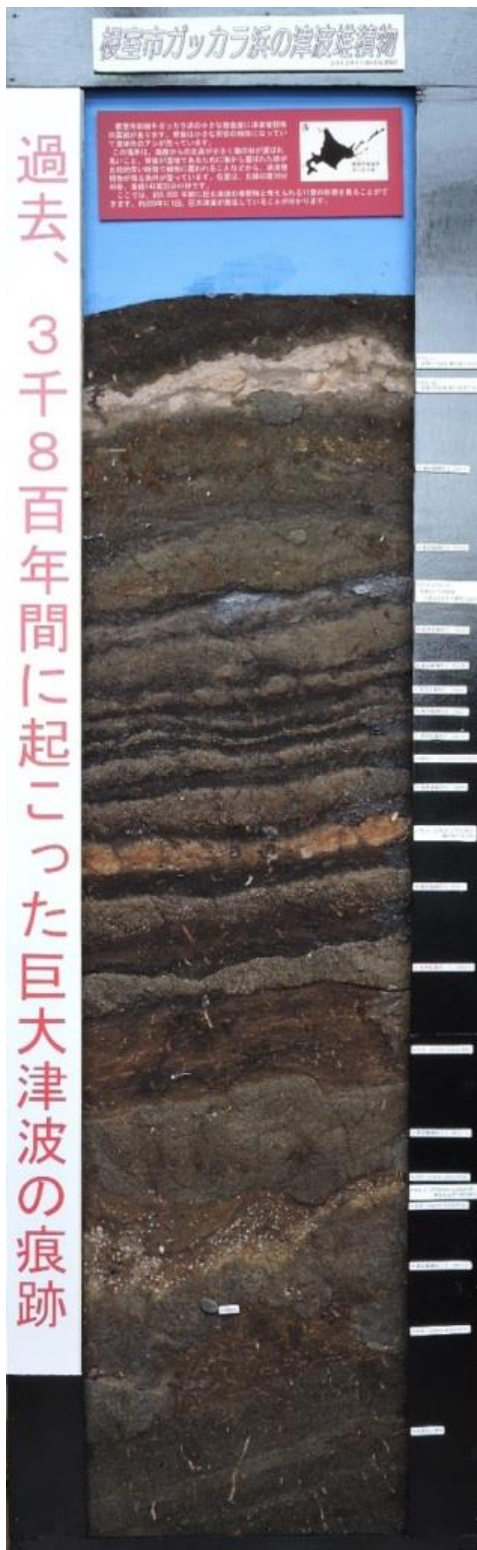
### 「小澤彦三が見た昭和初期のべつかい」の巡回展のお知らせ！

- 東公民館 1月16日（火）～1月28日（日）
- 西公民館 1月30日（火）～2月13日（火）
- 中央公民館 3月6日（火）～3月19日（月）

小澤彦三氏は、明治36年（1903）5月10日山梨県小澤村生まれ。昭和2-3年（1927-28）頃帯広の金物店に勤めました。その後、別海村春日に店を開き、中西別広野に移りました。若い頃からドイツ製のカメラを持ち、地域の様々な出来事を撮影していました。

昭和4年（1929）～昭和30年（1955）頃の別海・中西別・上春別地区の様子で、これまでに町史・地域史に使用されるなど別海町の開拓の歴史を語る上では欠く事の出来ない資料となっていました。





# 巨大地震、巨大津波 の痕跡を示す資料

平成29年12月19日（火）政府の地震調査研究推進本部は、東日本大震災に匹敵する規模の地震が「切迫している可能性が高い」と発表しました。

地域は、千島海溝沿いであり、十勝沖から択捉島沖までを震源域とするM8.8程度以上の地震が起きる確率は7～40%というものです。この規模の地震は、平均340～380年ごとに発生し、直近では、17世紀に起きたと考えられ、平均的な間隔の満期を超えていることから、注意喚起を行いました。

平均340～380年ごとに地震が発生している根拠は、北海道太平洋沿岸に見られる巨大津波の痕跡です。左の写真は、根室市ガツカラ浜に堆積していた巨大津波の痕跡で、海から運ばれた砂の層（灰色）が11層確認することが出来ます。津波堆積物は、根室海峡沿岸では、見つかっていませんが、津波が来ていなかったという根拠もありません。最近では、釧路沖、東方沖地震で記憶に残っている方が多いかと思いますが、この地震より大きな地震が切迫しているということなのです。

写真の資料は、平成24年に風蓮湖や野付半島の地質・地形調査を行っている国立研究開発法人産業技術総合研究所の七山太氏らと剥ぎ取りを行ったもので、現在、郷土資料館に常設展示していますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

別海町郷土資料館だより No.222

発行日 平成30年1月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

**編集後記** 超巨大地震が切迫しているという発表の根拠は津波堆積物の調査研究という科学的根拠に基づいたものでした。5年前にこの剥ぎ取り資料の作業に参加させていただき、巨大地震はいつ起きてもおかしくないと言われていました。この資料が語りかける多くの情報を本当に見ていただきたいと思います。(石渡)